

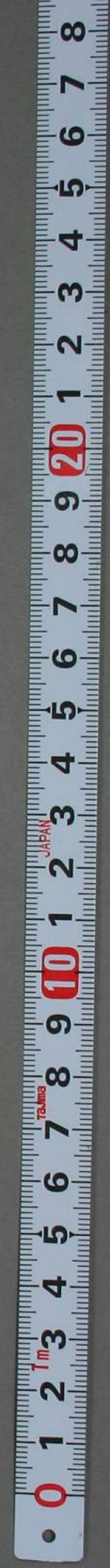


民間

年中故事要言

二

76
1015
2



門ヲ176
 號1015
 卷2



民間年中故事要言卷之二目錄

正月

- | | | | |
|---------|------|-------|------|
| ○ 七種菜 | 一丁メ | ○ 登高事 | 三丁メ |
| ○ 春駒 | 三丁メ | ○ 萬歲樂 | 四丁メ |
| ○ 子日松附 | ウラ | ○ 網引 | 五丁メ |
| ○ 松ノ德ノ事 | ウラ | ○ 粥枝 | 十二丁メ |
| ○ 龍義長 | 七丁メ | ○ 宿居 | 十四丁メ |
| ○ 小豆粥 | 十二丁メ | ○ 節 | 十五丁メ |
| ○ 十六日遊 | 十五丁メ | | 十六丁メ |
| ○ 鏡祝 | 十六丁メ | | ウラ |
| ○ 歳徳 | 十七丁メ | | ウラ |

宜野灣御殿

民間故事要言卷之二目錄



民年中故事要言卷之二
 河州 蔀 遊燕 編集
 七種菜
 七日ハ七種ノ粥ヲ製テ食スベシ七ノ種ノ菜ハ
 芥 芹 葱 蒜 薑 蓴 蕪
 是ノ七種
 五形ハ鼠麴草ト云モノナリニ夕佛
 耳草 黃蒿ナド、各クカハヨモキトイフ物ナリ 佛座
 ハ俗ニカハラケナト云菘ハウキナラフ云京都ニテ水菜ト
 イフモノナリトソ蔓菁ト下類ニシテニ物ナリ人多ハ菘



民年中故事要言卷之二

河州 蔀 遊燕 編集

七種菜

七日ハ七種ノ粥ヲ製テ食スベシ七ノ種ノ菜ハ
 芥 芹 葱 蒜 薑 蓴 蕪
 是ノ七種
 五形ハ鼠麴草ト云モノナリニ夕佛
 耳草 黃蒿ナド、各クカハヨモキトイフ物ナリ 佛座
 ハ俗ニカハラケナト云菘ハウキナラフ云京都ニテ水菜ト
 イフモノナリトソ蔓菁ト下類ニシテニ物ナリ人多ハ菘

ヲ不知 亦田平子ハ藥菜ナリスバハ薯ナリ木根ナリ
スバシロハ蕙ナリ蕪ナリト云説アリ拾芥抄ニハ薯ハカブ
ナトアリ亦塩囊抄ニハ芥 齋 五行 タヒラク
佛ノ座 アシナ ミ、ナシ 是ヤ七種 亦芥 五行
ナツナ ハコベラ 佛ノ座 ス、ナシ、ナシ 是ヤ七種
禁中ニハ内藏寮并ニ内膳司ヨリ正月上ノ子ノ日は奉
ルトナリ 宇多天皇寛平年中ヨリ始レルトゾ亦延喜
十一年正月七日ニ後院ヨリ七種ノ若菜ヲ供ス又天
曆四年二月廿九日女御安子若菜ヲ奉ル由李部
王ノ記ニ見エタリ又或記ニ曰ク神武天皇ノ御宇正月

七日始テ被行七種節會寛平二年正月十五日奉
七種粥トアリ夫木集ニ公朝ノ歌ニ 君ガタメ七ノ朝
ノ七草ニ猶ツミソヘン萬代ノ春シカルニ塩囊抄ノ説
ニハ正月七日七草ヲ献スト云事更ニナシ年中行事ニハ
七日白馬節會及叙位事兵部省御弓奏事ト許記
シテ七草ト云事ナシ十五日ニコソ獻七種御粥事註
シ侍レ 又資隆郷八條院へ書進スル簾中抄ニモ此
定ナリ彼抄各物ナリ豈浮ル事アラシヤ又禁中ノ事年
中行事ニシカンヤ既ニ廢務ニテ註セリ爭カ當時ノ事
漏ニヤ旁不審ナル事ナリ乍去諸人皆七日ト思ヘリ

何ナル事ニ歟人ニ可尋也次ニ其故ヲ云ハ太宗家訓ト
云文曰七種ノ若菜ヲ採テ調テ氏神并ニ所ノ三靈
次ニ父母ニ獻レテ後ニ是ヲ食スハ春ノ氣病夏ノ疫
病秋ノ痢病冬ノ黃病モ不病人ニ三魂七魄ト云神アリ
天ニハ七曜ト現ジ地ニハ七草トナルナリ是ヲ取テ服ス
レハ我魂魄ノ氣ガヲ增命ヲ延ル也太宗文王ノ時ヨリ
始ル事ナリト云愚曰ク家訓ノ説如何アラン又簋簋
内傳ニハ七艸粥不動明主七把髮降伏惡鬼コレ又下
家ノ説ナリ中華ニモ七日ニ七種ノ菜ヲ食スル事アリ
荆楚歲時記曰正月七日爲人日以七種菜爲羹ト

イヘリ亦四民月令曰立春日食生菜不可過取迎新
之意コレ今朝子ノ日ノ若菜ニ似タリ今日ヲ人日ト云
事前ニ見エタリ又靈辰トモイヘリ人ハ萬物ノ靈ナレハ
カク曰ニヤ
登高事
七日高キニ登ル事アリ錦繡萬花谷曰正月七日登
岳遠望四方得靜陰陽氣除煩惱之術也琅邪代醉
曰古人人日亦登高晉李充正月七日登剡山寺詩
命駕升西山寓目眺原野又歲時記曰春日登臨自
古爲適但不知七日竟起何代晉代桓溫參軍張望

亦有正月七日登高詩近代以來南北同耳

春駒

羊ノ始ニ馬ヲ作テ頭ニ戴キ歌ヒ舞フ者アリ是ヲ春駒ト名ヅケテ都鄙トモニ有事ナリ是ハ禁中ニテ正月七日白馬ヲ御覽ノ事アリカ、ル事ヲ下ニモウケテ侍ル事ニヤ世諺問答ニ曰ク今日オホヤケニテ白馬ヲ見冬フ事ハ白馬ヲ馬ノ性ノ本トス天ニ白龍アリ地ニ白馬アリ又天ノ用ハ龍ナリ地ノ用ハ馬ナリト云本文アリ又禮記ニ春ヲ東郊ニムカヘテ青馬七匹ヲ用ユト見エ侍リ又白馬ヲ青馬トイヒ侍ルハ馬ハ陽ノ獸ナリ青ハ春ノ

色キハメテ白キ物ハ青サメテニユルモノナリサレバ青馬トモ通ヒテ申ニヤ正月七日ニ青馬ヲ見レハ年中ノ邪氣ヲ禳トイフ本文侍ルナリ今ノ童子ノ春駒トイフハ是ヨリ初ニ侍ルニヤ仁明帝兼和元年正月豐樂院ニオハシマレテ青馬ヲ見給ヒ同ク六年正月ニ紫宸殿ニテ御覽セラルト也今ノ白馬ノ節會ニハ三七九一匹ヲヒカル也是ハ三八天地人ノ三オニカタトリセハ七日ニアヘルヨレ寛平ノ御記ニ載ラレタルトナリ今日ノ毛ヅケノ奏ニモ背アレモトバカリ有リ是白馬ヲモトセル故ナリトゾ人皇四十代天武天皇十年正月七日御門小安殿

ニオハシニシテ宴會ノ儀アリ是ヤ七日ノ節會ノ始ナルベ
カラシ公事又四十九代光仁天皇寶龜六年正月七日
白馬節會始行トモ云公ノ事ナレバ儀式此ニ畧ス夫
木集ニ白馬ノ歌サカノ山雲井ノ春ニ引初テ絶ズモ
ケフハワタル青馬鳥家見ワタセバ皆青鷺ノケツルメ
ノ引ツラ子タル馬司哉信實青馬ヲミツヒク物ト思フ
間ニワスレヤスラン今日ノ子ノ日ハ出羽辨

萬歳樂

春ノ初ニ萬歳樂トテ烏帽子素袍ヲ着テ色々ノ祝
言ヲ歌ヒ舞コトアリ是モ内裏ノ踏歌ノ事ヲ下ニミナ

ヒタルニヤ侍ラシ禁中ノ踏歌ト云事ハ昔ハ正月十五六
日ノ月ノ比京中ノ男女ノ聲ヨキ者ヲ召集テ年ノ始ノ
祝ヒ詞ヲツクリテ舞ヲハセ給フトナリ又月ノ比ナラ
子トモ闇ノ夜ニモ有レニヤ四十代天武天皇三年正
月ニ大極殿ニ渡御タマフテ男女ワカツ事ナク闇ノ夜
ニ踏歌ノ事アリトカヤ四十一代持統天皇ノ御時ハ
漢人踏歌ヲ奏セシトナリ四十五代聖武天皇ノ御時
ニ八踏歌ノ宴ニハ六位以下ノ人々琴ヲ彈テ歌テ曰ク
續日 本紀 アタラシキ年ノ始ニカクシコソツカヘマツラメ萬代ニテ
ニ五十代桓武天皇ノ延曆十四年ノ正月ニハ詩ヲ作り

テモ歌ヒシト也光源氏ノ物語ニモ踏歌ノ事侍リヌカ、
ル餘風ハルカノ末ノ世ニトバ、一リテ千壽萬歳ノ祝詞ヲ
ウタヒ侍ルナリ踏歌ノ舞人萬春樂ヲ奏セシ故ニ萬歳
樂々々々ト雜ナリ踏歌ノ儀式公事ナレハ漏レツ
中華ニモ踏歌セシ事アリ潜確類書ニ唐ノ代ニ正月十
六七日長安ニテ踏歌スト見エタリ

子日松附松ノ徳ノ事

子日遊ハ昔ハ正月初ノ子ノ日シカルベキ人々ハ野邊ニ出
テ小松ヲヒキテ千歳ヲ經ベキ由ノ祝ヒヲスル事也初
春ノハツ子ノケフノ玉箒手ニトルカラニユラクタマノ緒コ

ハ萬葉集ノ家持ノ歌ナルニヤ此玉箒トハ著トイフ州ニ
子ノ日ノ小松ヲ引クレテ箒ニツクリテ田舎ノ家ニ正月
ノ初子ノ日コカヒスル屋ヲハキ初ル事ト顯昭ノ袖中抄ニ
見エタリ 公事根源ニモ昔ハ人々野邊ニ出テ子ノ日スルト
テ松ヲ引ケル也 朱雀院 圓融院 三條院ナドノ御時
ニモ此遊ハ有ケルニヤ中ニモ圓融院ノ子日サセ給ヒケル
寛平元年二月十三日ノ事也二月ノ子日ヲ人皆アヤ
ルニ思ヘリ昔ハ正月ニ不限ト見エタリ夫木集ナドニモ
二月ノ子ノ日ノ歌見エタリ 倚松樹以摩腰習風霜之
難犯トアルハ寛平八年宇多天皇雲林院ノ子ノ日ノ

行幸ノ序ナリ菅丞相ノ御作倚松根而摩腰千年之翠
 滿手ト福在列ノ子日ノ野遊ノ序ナリ子ノ日スル野
 ベニ小松ノナカリセバ千世ノタメシニ何ヲヒカニシ忠峯 十
 年ニテカキレル松モケフヨリハ君ニヒカレテ万代ヤヘン能宣
 子ノ日シテシメツル野ベノ姫小松ヒカテヤ千代ノ陰ヲニ
 タニシ清正 君ガ世ヲ野ベニ出テゾ祝ケル初子ノ松ノ末ヲ
 ハルカニ俊成 今年生ノ松ヲ手ゴトニ引ソヘテケフヨリ後
 ノ千代ヲカゾヘン顯仲 實松ハ雪霜ニモシホニスシテ千年ヲ
 經ル貞木ナレハ春ノ初ノ祝ヒ事ニ野邊ニ出テ引ナルベシ
 錦繡萬花谷曰正月七日登岳遠望四方イヘルモ子ノ

日ノ遊ノ意ナリト又十節記ニモ是引又曰正月子 董勛問答
 曰歳首折松枝男七枝女二枝コレ以テ為藥ト見エタ
 リ是モ子日ノ松ニ似タリサレバ松ノ徳ヲイハハ枹朴子
 三松千歳ヲ經ルト云 倭佳トイヘル仙人常ニ好シ
 テ松ノ實ヲ食フ體ノ毛數寸能飛コト走レル馬ノ如レ
 其後松ノ子ヲ以テ堯王ニ遺ル堯王不受時ニウケテ
 コレヲ食フ者ハ壽三百歳ニ至ルト列仙傳ニ見エタリ嵩
 高山ニ松アリ或ハ百歳或ハ千歳其精變化シテ青牛
 トナリ伏龜トナル採テ其實ヲ食スレハ長生ヲ得ルト
 嵩山記ニ有リ丁固ト云レハ夢ニ腹ノ上ニ松生タリ

ト見テ人ニイヒケルハ松ノ字ハ十八公ト書リ十八歳
ニシテ公トナラントイヘリ實ニ詞ノ如ク公トナリニケリ
ト吳錄ニ見エタリ公トハ大臣ヲ云也秦ノ始皇ニ十
八年ニ泰山ニ上テ下ル時ニ風雨暴ニ至ル始皇松ノ下ニ
休ムノレニ因テ其樹ヲ封ジテ五大夫ノ官トス史記始
皇本紀ニ見エタリ

尤義長

十五日ノ曉ニ燒トコロノトウドサギチヤウト曰フハ其
說多シ先佛法ニテハ尊ヤ左義長ヤト囉レ亦ハ東土
ヤ西域義長ヤト囉スベシト云其故ハ後漢ノ明帝永

平三年庚申ノ歲帝異ナル夢ヲミル因テ中即將秦景
博士王遵等十八人ニ敕シテ天竺ニ遣ハレ佛法ヲ尋
シム卯度國ニ至テ摩騰竺法蘭ヲ請シテ佛經佛像ヲ
白馬ニ馱テ則チ永平十年丁卯洛陽ニ歸ル帝悅ニテ
白馬寺ヲ造ル摩騰法蘭四十二章經ヲ翻譯ス同
ク十四年正月朔日五岳ノ道士褚善信等帝ノ佛法
ヲ用ヒ給フ事ヲ不悅シテ元日慶賀ノ次ニ表ヲ以テ佛
教ト道教トヲ較試ミニシト請帝敕シテ尚書令宋庠ヲ
遣シテ引テ長樂宮ニ入テ詔シテ十五日ヲ以テ白馬
寺ノ南門ニ集ム善信等我道ノ諸經ヲ以テ右ノ壇上

二置帝亦經像舍利ヲ以テ尤ノ七寔殿ノ上ニ置タマフ其
時道士善信等壇ヲ遠リ天尊ニ泣懇シ梅檀香ヲ以テ
我經ヲ燒奠ハクハ損スル事ナカレト云レカルニ道經コトク
ク灰トナル天ニ昇火ニ入水ヲ履形ヲ隱ストコロノ道士ノ
諸術モ盡テ能スルコトアタハズ禁呪ヲ善スル者モ策アタ
ハハト號シカアルニ佛經ハ更ニ火ニ損スルコトナレ時ニ太傅
張術道士善信ニ謂テ曰ク道士ノ教ハ是虛妄ナリ佛敎
ノ真法ニ就ベレト時ニ南岳ノ道士費叔方大ニ慙テ自ラ
感レテ死ス時ニ佛舍利光明 五色ニシテ直ニ虚空ニ上
リ旋環テ蓋ノ如ニシテ大衆ヲ覆フトテ日輪ヲ蔽フ摩騰

ハ是ヨリ先羅漢ナリ即チ神通ヲ以テ虚空ニ游飛行坐
臥神化自在ナリ時ニ天ヨリ華ヲ雨シ及ビ音樂ヲ奏ス
其時後宮ノ張夫人王婕妤等百九十一人司空楊城候
劉善峻等二百六十八人四岳ノ道士呂慧通等六百二
十人京都ノ張子尚等三百九十一人一度ニ出家レテ
佛法ニ歸依スト也右ノ事迹譯經圖記ノ説ナリ明帝ノ
靈夢ハ破邪論ニハ末平三年佛祖通載ニ四年編年
通論佛祖統紀ニハ七年正宗記ニハ十年ニ作ルサレハ十
五日ノトウトヤサギチヤウハ尤ニ置レ佛經ノ燒カレバ貴
ヤナ尤ノ義長タリトテ貴ヤ尤義長トハ囉トナリ 亦

西域義長ヤ東土ヤトイフハ西域ノ佛法ノ義マサリテ
東土へ流布スルト云義ナリトモ謂リ亦三元張ト云
説アリ三元トハ正月十五日ヲ上元ト云七月十五
日ヲ中元ト云十月十五日ヲ下元ト云フ中華ニハ此三
元ニ燈ヲ張コトアリ和國是ニテラフテ正月十五日サ
キチヤウラスルト云容齋隨筆西京雜記春明退朝
録開元遺事ナド二十五日ニ燈ヲ設庭燎ヲ設ル事見
エタリ亦三毬打三及技三毬
杖同コトナリトイヘル一説アリムカレハ正
月十五日マテ打タル毬杖ヲ三立テトウドヲ作ルサルカ
ラニ三毬杖トハイフ合世竹三本ヲ足ニシテ作ルモ其形

ナリトイヘリ徒然州ニ書レシハサギチヤウハ正月ニ打々
ル毬杖ヲ真言院ヨリ神泉苑へ出シテ燒アケルナリ法
成就ノ池ニコソトハヤスハ神泉苑ノ池ヲイフ也ト云ヘリ
コノ意ハ真言院ノ前ニテ打タル毬打ノ玉ヲ松竹注連繩
ナド集テ神泉苑ノ水邊ニテ燒コトナリ今ノ世モ十五日
ニスルコト明ナリ法成就ノ池ト囉スハ神泉苑ノ池ノコト
ナリ雨ノ初ノ成就シタル池ナレバカクハ曰ナリコノ囉コト
ハ神泉苑ニ限リテ曰フ筈ナルニ何方ニテモ囉ス故ニ兼好
法師其各義ヲ記サレタルモノナリ今ノ世大内ニテモ
トウトヤ御法ヤト云ハ貴ヤ御法ヤト云事ナリ皆雨ノ

祈ノ法成就ノトコロヲ曰トナリ神泉苑ニ雨ヲ祈コト江談
三四箇度アリ釋書等ニモ見エタリ毬杖ノ事ステ二前ニ
記ス亦口傳トテイヘルハ三毬杖ハ天地人ノ三オヲ至ニ
アラハシテ打走シムル也意ハ三オノ行ハル、様ヲ祝レタ
ルナリ正月十五日ニテ用ル所ノ注連繩松竹ヲ集テ毬
杖ヲ燒ナリ竹三本ヲ立ルハ三オニ象ル三角ニタテスホ
ニ作ルハ陽ノ形ナリ燒アゲルハ陽ヲ祭ルナリ其火ヲ水ニ
消ヲサムベシト曰フ亦サキキヤウハ爆竹ナリト云説ア
リ中華ニテ元日ニ爆竹スル事アリ本朝コレニナラフテ
十五日ニトウトラスルナリ因テ爆竹ヲサキキヤウト和

訓ス爆竹ノ事ハ西方深山ノ中ニ人アリ身ノ長一尺餘
リ足ヒトツアリ人ヲ犯ストキハ寒熱ヲ病ム名テ山臊
トイフ人竹ヲ以テ火ノ中ニ著燂燂トメ聲ヲヒカセハ
山臊驚キ憚テ去トイヘリ神異經ノ説ナリ事文類聚
元日條亦ハ事物紀原爆竹ノ下ニモ見エタリ歲時記
ニタ元日ノ下ニ此事アリ亦ハ除夜ニモスルニヤ王荊公
ガ詩ニ爆竹聲中一歲除トハ依レリレカレハ唐ニテハ除
夜元日ナト竹ヲ燒テ聲ヲ響ナリコレ鬼ヲ禳術ナリ日
本ニタコレヲ習フテ十五日ニスルナラン春ノ初ナレハ一
年ノ邪氣ヲ拔ヒ散セル意ナルベシ中華ニモ強ニ元日ハカリ

爆竹スルコトニテモ有サルカ范在能カ説ニモ吳ノ俗ハ十
二月廿五日爆竹スルヨレヲイヘリ 凡爆竹ノ聲ハ陰氣
ノ滯ルヲ散シ邪氣ヲ驚カシムルト見エタリ 唐ニ仲史ト
云者アリ山鬼ノ夕メニ祟ヲナサレテ牖戸ヲモ開ク事ア
タハズ山鬼石瓦ヲ投テ妨ヲナス仲史巫覡ヲ求テ是ヲ
拔トモ益崇ヲナスコト盛ナリ其隣ニ李旼ト曰人アリテ
仲史ニ謂テ曰ク日夜庭ニラヒテ竹數十本ヲ以テ除夜
ノゴトクニ爆竹スベシト仲史ソノ言ノ如ク竹ヲ焼テ聲
ヲナセバ鬼ノ祟止ニケリ李旼該聞集ニ見エタリ 焦氏
又李三ト云者アリ死シテ厲鬼トナル其郷ノ者凡祭祀
筆乘

佛事ナドスレバ李三ガ爲ニ別ニ饌ヲソナフ若カクノ如
クヒサレバ食物コトぐク鬼ノ夕メニ汚サル後二人アリテ
竹ヲ以テ其靈ノ依トコロノ樹ヲ焚ケレバ是ヨリ逐ニ崇
ハニ又朱子曰是他狂死ノ氣未散被爆竹驚散了ト云
リ朱子語類ニ見エタリ是ヲ以テ見侍レバ爆竹ノ邪
氣ヲ辟コト其理アリ今日本十五日ノ爆竹ハカハルコト
ノ遺意ニヤト云フ亦清明ガ曰ク三笈杖燒齋會三毒
退治ノコトハリト簞盂盂内傳ニ見ユ今諸説ヲ是ニ上テ
サギキヤウノ事ヲコトハリ畢又後花園院末亭四事始
テ禁中ニハコレヲ行ハルトイフ

綱引

十四五日ノ比兒童ノ戯ニ大キナル繩ヲ數十人集テ
争ヒ曳コト有コレヲ綱引ト云中國ニモ是ニ似タル事アリ
歲時記曰立春日拖鈎之戯以繩作篋纜相胃綿亘
數里鳴鼓牽之按公輪子遊楚為載舟之戯退則鈎
之進則強之各曰鈎強遂以鈎為戯起此トイヘリ

小豆粥

十五日早朝ニ小豆粥一餅ヲ雜テ食ス清少納言カ枕
草子二十五日ハ餅粥ノ節供マイルト書シモ此事ナリト
リ、小豆粥ニハ能アル事ナリ本草綱目曰赤小豆粥

利小便消水腫脚氣ト見エタリサレバ正月十五日小
豆粥ヲ煮テ寢ニ案ヲ立テ其上ニ粥ヲ置キ其粥ノ凝
カタニル時ニ東ニ向テ再拜シテ是ヲ服スレバ年中疫癘
ヲ病スト云事世風記ニ見ユ是ヲ天狗祭ト曰ト也亦
十五日ニ膏粥ヲ作テ門戸ヲ祠ト云事玉燭寶典載
タリ亦事文類聚ニモ十五日ニ豆ノ粥ニテ祭門ト云
事アリ歲時記一夕同シ吳縣ノ長成ト云者夜起テ忽
チ一ノ婦人ノ宅ノ東南ノ角ニ立テ手ヲ舉テ長成ヲ
招テ謂テ曰ク此地ハ是君カ家ノ靈室ナリ我ハ即チ
コノ地ノ神ナリ明年正月半ニ白粥ヲ作り膏ヲ其上ニ泛

テ我ヲ祭ルベシ必ス君ガ蚕ト桑トヲ百倍ナラシムベシ
ト言訖テ矢ニケリ長成其言ノ如クセシカバ是ヨリ後大
キニ蚕ヲ得テ其家富トナリ今正月半ニ白膏粥ヲ作ルコ
ト自此始也ト續齊諧記ニ見エタリ亦十五日ノ夕紫姑
ヲ迎テ以テ來年ノ蠶桑ヲ卜并ニ衆ノ事ヲ占フ劉敬
叔カ異苑ニ紫姑ハ本人ノ妾ナリ本妻ノ爲ニ妒レテ正月
十五日ニ死ス故一世ノ人其形ヲ作テ是ヲ祭リ迎フト十
リ荆楚歲時記ニ見エタリ猶奇怪ノ事ヲ載ス亦七種
ノ粥トイヘル事アリ米 粟 黍 稗 苳 胡麻 小豆 延
喜式ニ出タリ亦九條右丞相ノ記ニハ 白穀 豆 小豆

粟 粟 柿 小角豆トドナリト記セリ亦正月ニ地黄粥
防風粥 紫蘊粥ヲ食スレハ人ニ宜ト云コト千金月令
ニ出シカアレハ中葦ニモ正月半ニ八豆ノ粥 膏ノ粥ナトモ
用ル事アレバ日本今日ノ小豆粥是ニ似タリ其初リ八字
冬天皇寛平ノ比ヨリ起ルトカヤ
粥杖
十五日ニ粥杖トテ男兒ノ戯ニスル事アリソレハ松ノ杖亦
ハ柴ナドニテ女ノ腰ヲ打バ子ヲ産ミジナヒトテスルナリ今
モ小童トモノ道行女ノ腰ヲ打コトナリ西國ニテハ棒ニテ打
トコロ有北國ニハ松ノ杖ヲ彩テ其ニテ女ヲ打トコロモ有ト

づ是ヲ粥杖ト云禁中ニモ昔ヨリ有レ事ナリ清少納言
 枕艸子ニ曰ク十五日ニ粥ノ木ヒキカクシテ家ノコタチ
 女弟ナドノウカガフヲウタレジトヨウイシテツ子ニウシ
 ロヲ心ツカヒシタルケレキモオカシキニイカデシテゲルニ
 カアランウチアテタルハイミレウケウアリトウチワラヒ
 タルモノハへぐレト云亦大貳三位狭衣ニ曰ク年モカヘ
 リ又十五日ニハ若キ人々ツ、カレコニ集居ツ、オカレゲナ
 ル粥杖ヒキカクシツ、カタミニウカミニ又ウタレジト用意
 シタルスミヒオモハクドモ、オノノクオカレク見ユト云紹
 巴法眼ノ下紐ニ曰ク粥ノ杖ニテ打故事可勘禁中ニモ粥

杖ニテ女房ヲウテハ男子ヲ生ズトテ打ナリ越前ナド
 ニハコトクシキトナリ本文ハ不知也トイヘリ今紹巴ノ
 説ニ依ハ粥杖ニテ女ヲ打ハ男子ヲ生スル一ツナト見
 エタリ亦美濃國泳宮ノ村ニ正月十五日ニ新ニ杖ヲ削テ
 其削屑ノ縷ノ如クナルヲ杖ノ頭ニ殘テ各テ削掛トイフ
 是ニテ女ヲ答テ大ノ男十三人トイヘリ然レトモ其義
 ヲ知ル者ナレ是モ男子ヲ生コトヲ求ル祝コトハラン枕
 艸字狭衣ナドニモ書レタル事ニテ大内ニモ昔ヨリ有來
 タル事ヲ民ノ上ニモ習フテ童ノ戯ニモ人ル事ナランカシ

十六白遊

十六日ハ我國ノ風俗ニ遊ビ樂ミ寺詣テナドスル事アリ
中華ニモ今日ハ齊魯ノ國ノ人ハ寺觀ニ遊テ百病ヲ走
レムト云事五雜組ニ見エタリ齊魯ノ人多ク正月十
六日遊寺觀謂之走百病コレ和漢相似タル事也

宿居

十六日ニハ主人持タル下人暇ヲ乞テ改郷ニ歸リ父母
兄弟親類ニ對面シテ樂ミ遊ブ事ナリ是ヲ宿居ト云
俗ニヤブイリト曰ハ誤ナリトゾ唐ニモ執金吾ノ官ハ宮
中ノ者ノ夜アリクヲ禁ル事ヲ司トル官ナリサアレト云
正月十五白ノ夜勅シテ前後各一日ハ禁ヲ放レテ心ニ

任セテ行ク是ヲ放夜ト云ト兩京雜記ニ載タリ和國
ニ今日主君ニユルサレテ宿ニ居テ遊モ以タル事ナリ執
金吾ハ後漢ノ官ノ名日本ノ左右ノ衛門府ニ當ルト職
原抄ニ見ユ

鏡ノ祝

二十日ニハ女ハ鏡臺ノ祝トテ元日ヨリ鏡ニ供オキ餅
ヲ煮テ食スル事アリ是武士ノ鏡ノ餅ヲ祝フト同事ナ
リ二十日ニ鏡ニ供シ餅ヲ祝フハ初顔祝ト曰詞ノ縁ヲ
取ナリト言傳ヘ侍リ女ノ鏡ハ男子ノ劔ノ如ク身ノ護ニ
ナル物ナリトイヘリサレバ鏡ノ初マリシハ玄中記ニ堯王

ノ臣下尹壽鏡ヲ作ルトアリ黃帝内傳ニハ帝西王母ト
王屋山ニ會ス則チ大鏡十二面ヲ鑄テ十二月ニ隨テ
コレヲ用ユ鏡ハ蓋シ黃帝ニ肇メル尹氏ニ始マルニハ非ズ
ト事物紀原ニ出タリ鏡臺ハ魏武雜物疏ニ魏ノ宮中
ヨリ出タリト同紀原ニ出

節

正月月中ハ眷屬相互ニ酒肴ヲ設テ饗事アリ是ヲ
節ト謂フ具ニハ節會トイフベキヤ常モ親戚ノ饗應ハ
アレドモ今月ニ限リテ節ト曰ハ一年ノ初ナレバ俗ニ
オモンジテ謂フニ荆楚歲時記曰元日至於日晦並

爲醕聚飲食士女泛舟或臨水宴樂按每月皆有弦
望晦朔以正月初年時俗重以爲節也王燭燻典曰
元日至月晦今並醕食トイヘリ唐ノ長安ノ風ニモ毎年
元日以後互ニ相送リムカヘテ酒ヲ飲節ヲ賀フ是ヲ
名ヅケテ傳坐トスト秦中記ニ見ユ亦法苑珠林ニモ出
タリ中華ニモ我國ノ節ニ似タル事モアリケル

歲德

元日ヨリ晦日マテ和國ノ俗歲德棚ヲ架テ歲德神ヲ
祭ル事ナリ安倍ノ清明カ説ニハ歲德神ハ牛頭天王ノ
妻ナリ則チ南海ノ沙鳴羅龍王ノ女頗梨塞女ヲ

云ト見エタリ 委ハ先ニ巨且ガ下ニ記ス此ニ亦歲德ノ
 事ニ正説トスヘキ義アリ 其故ハ十干ノ陰陽配合シ
 テ一年ノ間萬物ヲ生ズル所ノ德アル方ヲ歲德ノ方
 トス全ク神ノ名ニ非ス十干ノ内五ヲ陽德トス甲丙戊
 庚壬是ナリ亦五ヲ陰德トス乙丁己辛癸是ナリ甲
 ノ歲德ハ東宮甲ノ方ニ在リ丙ノ歲德ハ南宮丙ノ方ニ
 アリ戊ノ歲德ハ中宮戊ノ方ニアリ庚ノ歲德ハ西宮庚
 ノ方ニアリ壬ノ歲德ハ北宮壬ノ方ニアリ此五千ノ歲德
 ハ皆陽德トス故ニ其方ニアリ亦乙ノ歲德ハ西宮庚ノ
 方ニアリ丁ノ歲德ハ北宮壬ノ方ニアリ己ノ歲德ハ東宮

甲ノ方ニアリ辛ノ歲德ハ南宮丙ノ方ニアリ癸ノ歲德ハ
 中宮戊ノ方ニアリ乙丁己辛癸ハ陰干ナレバオノツカラ
 德ナレ陽干ノ甲丙戊庚壬ニ配合シテ德ヲ成是ヲ以
 テ巳ヲ甲ノ妻トシ相合ス故ニ巳ノ歲德ハ甲ニアリ辛
 ヲ丙ノ妻トシ相合ス故ニ辛ノ歲德ハ丙ニアリ乙ヲ庚ノ
 妻トシ相合ス故ニ乙ノ歲德ハ庚ニアリ癸ヲ戊ノ妻トス
 故ニ癸ノ年德ハ戊ニアリ五行ハ皆相對ヲオソル、故ニ木
 ノ妹ヲ以テ庚ノ金ニ妻セ火ノ妹ヲ以テ壬ノ水ニ妻セ
 土ノ妹ヲ甲ノ木ニ妻セ金ノ妹ヲ以テ丙ノ火ニ妻セ水
 ノ妹ヲ戊ノ土ニ妻ス是三十相對ヲオソレテ各配合シ

テ以テ萬物ヲ生ズトイヘリ此説ヲ用レハ十千ノ陰陽
配合シテ年中ノ萬物ヲ成スル所ノ徳アル方ハ是ニ徳
ナルベシ

此説ハ先王ノ徳ヲ以テ萬物ヲ生ズル所ノ徳アル方ハ是ニ徳
ナルベシ

民間年中故事要言卷之二

